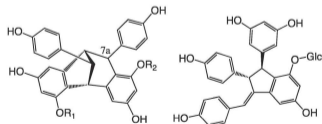


29amA-251

フタバガキ科植物の成分研究 (43) *Shorea cordifolia* 由来オリゴスチルベノイドの構造
○西谷 紘子¹, 伊藤 哲朗¹, 大山 雅義¹, Dedy DARNAEDI², 田中 稔幸³,
邑田 仁⁴, 飯沼 宗和¹(¹岐阜薬大・生薬学, ²LIPI, ³岐阜薬大・薬用資源学, ⁴東大院・
植物園)

【目的】フタバガキ科植物は、ポリフェノールの一種であるレスベラトロールの重合体 (ResOligo) を主要成分とする植物である。我々は ResOligo に焦点を当てて化合物ライブラリーの充実化と生物活性の探索を進めており、これまでに *Shorea* 属、*Vatica* 属をはじめとする本科植物の成分研究を行ってきた。^{1), 2)} 今回は、*Shorea cordifolia* 葉部および木部由来のポリフェノール成分について報告する。

【実験・結果】インドネシア産 *S. cordifolia* 葉部を乾燥・粉砕後、室温にて順次アセトン、メタノール、70%メタノール抽出を行い、得られたアセトンエキスを各種クロマトグラフィーにより分離・精製し、4 種の新規化合物 (1-4) を含む 11 種の化合物を単離した。各化合物について NMR、MS データ解析を行った結果、単離成分は全て ResOligo (二〜四量体) であり、化合物 1-4 は Res 二量体をアグリコンとする配糖体であると決定した。化合物 1-3 は dibenzobicyclo[3.2.1]octadiene 骨格を持ち、1, 3 は互いに C(7a)位のエナンチオマーである。本素材木部についても同様に成分研究を進めた結果、9 種の ResOligo (二〜四量体)、ベルゲニンおよびエラグ酸ラムノシドの同定に至った。



- 1) Ito, T. *Yakugaku Zasshi*, **131**, 93-100 (2011).
- 2) Ito, T. *et al.*, *Tetrahedron Letters*, **50**, 2516-2520 (2009).

	R ₁	R ₂	C(7a)
1	Glc	H	S
2	H	Glc	S
3	Glc	H	R

4